

1 精製白糖

2 導電率の項を次のように改める。

3 導電率 (2.51) 本品31.3 gを新たに煮沸して冷却した蒸留水
4 に溶かして100 mLとし、試料溶液とする。試料溶液をマグ
5 ネットスターラーでゆるやかにかき混ぜながら $20 \pm 0.1^\circ\text{C}$
6 で試験を行い、試料溶液の導電率(κ_1 ($\mu\text{S}\cdot\text{cm}^{-1}$))を求める。
7 同様に操作し、試料溶液の調製に用いた水の導電率(κ_2 ($\mu\text{S}\cdot$
8 cm^{-1}))を求める。導電率の値は30秒間当たりの導電率の変化
9 率が1%以内に安定した値でなければならない。次式により
10 試料溶液の補正された導電率 κ_c を求めるとき、 κ_c は $35 \mu\text{S}\cdot$
11 cm^{-1} 以下である。

$$12 \quad \kappa_c (\mu\text{S}\cdot\text{cm}^{-1}) = \kappa_1 - 0.35 \kappa_2$$

13

14